

萬國新聞紙  
二集 初集

18  
194

4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2

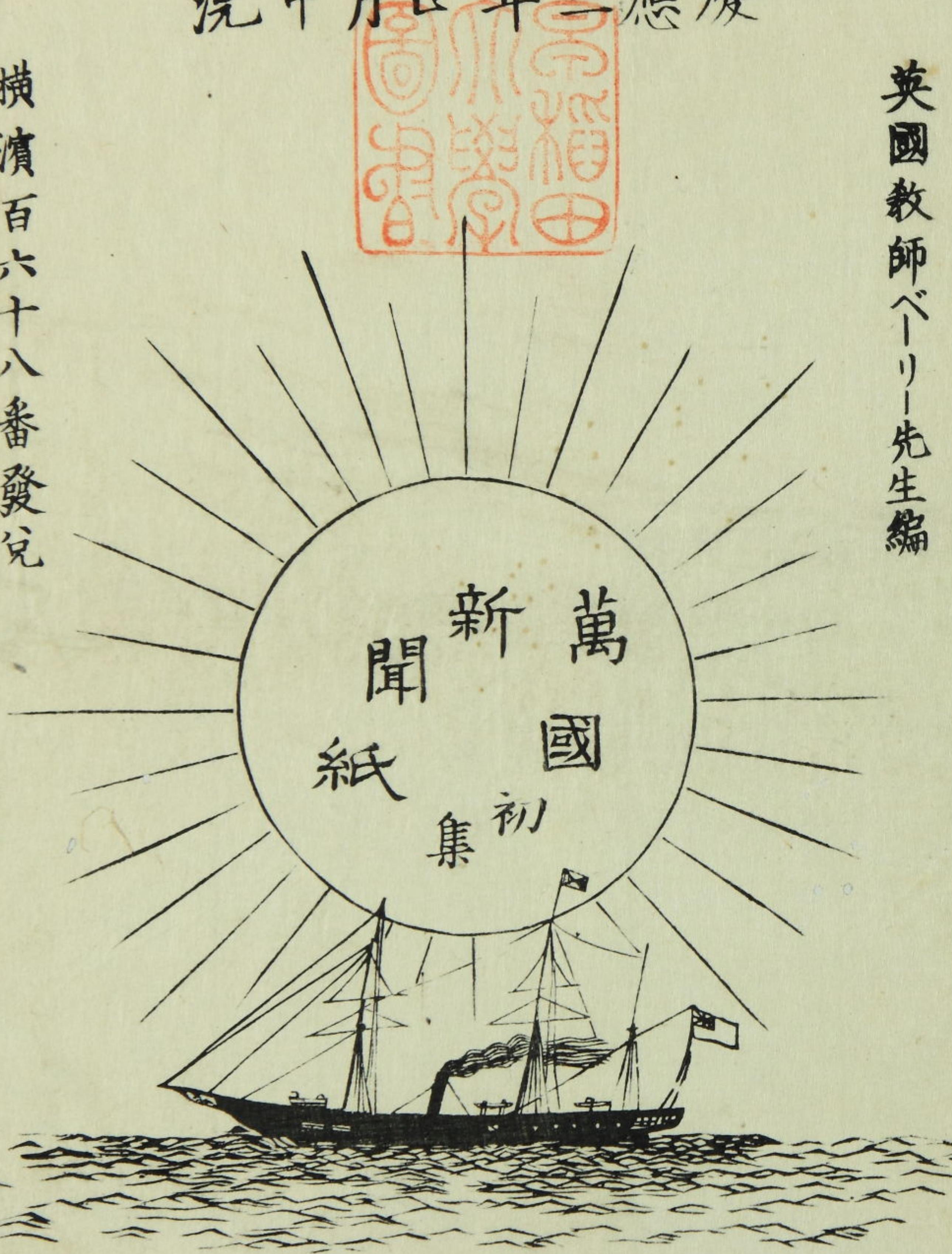


門號卷  
194

慶應三年正月 中浣

英國教師ベーリー先生編

横濱百六十八番發兌



昭和十五年五月十一日購求

凡例

一此新聞ハ日本、諸君子ニ萬國ノ事情ヲ知ラシム為ニ編成セル者ナリ  
一日本ノ開化スル更速ニシテ方今有志ノ諸子萬國ニ遊歴學問スルヲ官許  
アルハ實ニ余輩ノ大慶ナリ此時ニ當テ諸君子萬國ノ事情ニ通スルハ  
實ニ缺ヘカラサル急務ナリ

一毎月二三回飛脚船ノ新聞ヲ得ルヤ否直ニ上木スヘシ

一此新聞ハ諸人ノ報告ヲ集メテ編セル者故ニ其報告間々疑アリテ其說  
確ナルヤ否ヲ知ラズト雖凡編者是ヲ辨スルヲ能ハズ

一諸君若シ珍説奇談ヲ聞カハ本村通百六十八番或ハ本町通八十三番マ  
テ報告セラレベシ然レハ直ニ此新聞ヘ加ヘ出板スヘシ

一飛脚船到着次第外國諸物價相場ノ報告ヲ得ハ是亦一同上木スペシ

萬國新聞

貴國政府より異國遊歴之許ヤー全年亞國蒸氣船「ヨロニアド」此舉うち我  
知ナ偶然第一月二十四日日本廿九日横濱に着セラヒ希有の奇合といふ歟ト  
茲より帆船にて海外を遊歴する時ハ海路悠遠且つ到着の期々又定む  
べからざる故ニ蒸氣之力を假らんハ此大地球を遊歴するも実ト難モヤ  
○爰ニ二君子あり遠く海外を遊さんと欲す一人を海路を東に取り一人ハ海  
路を西に取つ其東洋行ハ彼の亞國蒸氣船「コロラド」ミ乗リ横濱港より  
出帆ト大平海上劃破一ト直ニ「サンフランシスコ」亞國内又趣ミ此海程大卒二千里貨ハ四百三十ドルより  
三百五十ドル迄シ夫トヒ他船に乗リ東南に向て駛セ海程五百五十里を経て「パナマ」の  
地峽ノ到着す此の地峽の廣サ大九十九里此處を蒸氣車ト乘リテ「卫スピ  
ウナトリ」地に到リ他の蒸氣船ト乗リ北向一ト駛セ「ユーヨルク」地又達モ通して  
海程大九二千八百里即二十日行ト此アス「サンフランシスコ」内名ヨリ「ユーヨルク」名ト  
蒸氣車送ト行ハ終ニ五日トテ達タニヨウヨルク地ト又他船乗リ  
船貨大西洋を経て「レグルブル」名地又趣ミ夫トヒ「ロンドン」英國都府名ト着モ廈門トヨ  
ヨリク地トヨリ「ロンドン」名都府までの海程ナ十日行と定む若リ「ユーヨルク」名ト  
寄リテ直ニ「卫スピウナトリ」名地ヨリ「ロンドン」名都府ト趣ラサ夫トヒケン小早川ベ  
ト

然う町を亞墨利加の地と多く觀る能くことべ一茲にて「ロンドン」の都府より到着の後暫時にて先の印度行セ一人と互に逢ふて其経過する所の旅情光景残談もりと豈ゞ旅境の一適もり矣也  
我等の新聞紙は甚狹少アリて尽く網羅も力支能キル故ニ印度行の奇説も次の新聞紙に譲りて今茲も得ずる處の新聞を報告する事左の如キ

近頃の歐羅巴及び亞墨利加新聞ハ蒸氣船「コロラド」入港前第十一月廿六日  
日本十月又得者アリ其後此蒸氣船着港にて「ロンドン」都府より本年第十二月三十日相隔迄及ひ「サンフランシスコ」港名ノリ第十一月一日廿六日迄の兩報告を得アリ  
又其後英佛飛脚船入港にて「ロンドン」ノリ第十二月廿六日日本十二月二十日迄の報告を得アリ但シ某十二月三日よりの報告ハヨリ傳信枕と以て直ニ亞國に報告シ第十二月十七日迄の報告ハヨリ傳信枕と以て直ニ亞國に報告シ第十二月十七日迄方今歐羅巴洲中ハ尽く靜穩無事アリ

### 英吉利國

英國王嗣子アリスオザウエーリス英國王嗣子の尊称を他邦と多く跋涉セ一人アリ此嗣子妃の妹アリスマルク國王の女今茲魯國の嗣子嫁す因て其席に列す若々魯國ノリ行マリヘ近頃本國ノ帰れアリ

### 佛蘭斯國

佛蘭斯國都府「パリス」佛蘭斯國都の名於て萬國會集にて大博覽會と催さんとす日本ノても既アリ其會集ノ趣ミアリ○朝鮮國於て佛教師殺害され一報告佛國ノ達アリ時帝是と聞ケモ彼此の理非未タ分明アリ故ニ直ニ朝鮮を伐マリテ朝鮮在留「アドミラル」日本國の命を受モ直小是と襲ひテ却て大敗アリ死傷四十五人オハアリ此報の本國ノ達モルヤ其敗ヲ酬ひん考戰爭の用意嚴重アリ

### 阿蘭陀國

日本の軍艦「カイヨーマル三ヶ月以前本国ノ歸んと阿蘭陀を出帆セリ

### 甫魯臣國

國王ヨーストリア國名との戰爭ノ大勝利を得アリ其功賞アリて惣督ノハ億四万六千両を与マリ是アリ甫魯臣の威勢大アリ盛ヨリテ「ヨースト

### 阿蘭陀國

國帝日本「サイアム」國名及び支那國へ使節を送ルと欲テ既ノ其用意を為セリ

### 伊太利亞國

佛蘭斯の兵羅馬法王と守護セリと止マリ羅馬人も亦法王を廢棄シ

て英國と伊太利亞國と合——其支配下従人シテル○國王其「ニニストル」砲を江都へ送りんと軍艦二艘近日出帆の用をす

西班牙國

西班牙國於て政府より遂て一揆立起さんと企てる者有り

亞墨利加國

合衆國よ於て近頃謀叛せ——國と支配する支那にて大統領と會議官の間よ異説と起り、其兩説の理非分明う。——三ヶ月以前、新會議官と撰さんとするの期限に到り、合衆國にて大統領及び會議官四年期後於年三十到れ、退官す。大統領及ひ會議官四年

然きも人民其旧會議官の説を伏す。其退官三十と肯ぞ、夫と旧官に復さんと因て大統領此説非うと推察ナ。○此度太平海犯船社中「サニララシス」名、「ホニコニ」名、港の間、航海する為北進氣船二

艘と製造せり。此船を「コロラド」號ト、稍く大う。

墨西哥國

此國今乃於て政変立す。——國中擾乱あり。佛蘭斯帝爰々政変と見、ハ「ヨーストリア」國王の家族「メキシメリリハ」族にて帝ハ、且兵として是と守護ハ。合衆國政府より、歐羅巴洲中何れの國ありとも決して墨西哥を東南ふせぎを許さずといふ。故に其兵是伐守護する。皇室ハ、ハ一退散を此より於て国帝獨立援救く。將ミ其國を退くんとレ

「トリ」及び「ペリュー」國

此兩國も基々小國にて、南亞墨利加西部太平洋ハ、瀕モリ地不在り。中國近頃「西班牙」と戦争ヤ。今英佛等中小入て和睦と唱ふ遂に和ちざる能ふる也。

日本國

一月前本國と「デ子マルク」と永代不朽の和親定約を取結ひ。——十日あ本國政府の兵隊ニ操練と教授せんが爲、小佛國より士官數人うち着や。二月前美國水師提督「アーリンシスロヤル」号小乗にて長崎ニ趣く途中筑前箱崎にて上陸。國侯と尋訪ヤ。提督以下諸士小到了達大よ侯の駕情と蒙り、珍羞盛饌にて饗食應と受け。し英國士官二人「ニストル」の大切うる書翰を持。使者とて大坂小趣マリ。の大君乃尊弟「エウロッパ」小趣んと欲して英國の「アレキサントル・ホニシーポルト」と名。己ヨ當地を出帆せり。支那香港居住の者を横濱ニ在泊。貴人を贈り。書翰ニ因て左の報を以て。江戸海より丈島ニ到。海上にて日本船一艘破船ヤ。其船中都百三十人、丈島困苦。遂に香港に達セり。香港の人民大小此の漂流人を憐り、最も憂情深切不極たり。今度

香港より蒸氣便船を以て彼漂流人を本国へ送らんの用意をあせり  
前文報告の後又左の報告ありテ先づる漂流人十二月十三日英國飛  
脚火輪船「コリア」ノ号來一航行キテ翌十四日夜ハツ時頃海口暗礁  
突當り艤先破裂ト及ヒ直ニ乘戻ストヤ速時小水艇トヨウリ小艇  
三艘より數人乗移リ残アリ者ハ水中小艇入各々小島に附上陸ナ本  
船ハ半時ヨリテ全沈モ檣帆迄も没ナリ十五日支那船小乗移ク十六日登一回  
仙頭地名小上陸ナ九日間停滞廿四日晚英國火輪船「アンデール」ノ号來一長戸路  
收藏菊地秀右衛門以下十九人廿五日香港碇入津モ殘る廿一人別小支那の帆  
船と雇ひ三四日中是又入津のヨリ三十六日中溺死一人別々支那人兩三人溺死  
キテ右の漂流人以前の多く英國衙門小艇夫々撫慰一同相持テ  
送歸さんとれ新聞紙トヨウ尽く溺死とあり是ニ二十人の者未だ當香港  
来著セリ以前破船の凡評ありテ或直小撰入キテ者と察す此  
報告こそ確說ヨリテ二十八人眼前無更ナ入港至るを喜キ十二月  
廿七日書翰○當時横濱小碇泊セラ外國船ハ商船二十一艘軍艦九  
艘中小就て四艘ハ英國三艘ハ佛國一艘ハ米利堅一艘ハ獨逸都合  
九艘ナリ

#### 支那國

此国草寇盜賊紛糾トテ擾乱人心惄々トモ居合ハシマ此度外國  
ト傳信機及ヒ他兵器を許多買入ラリ。政府の威勢も速  
以前の穏静小挾復モラリテ又政府より亞國傳信機社中に  
香港と上海の間ト其機を施テ製造モリテ許容アリ是亦  
数月にて成就モラシム

#### 電氣線

「コロナド」號の「サンフランシスコ」港と出帆モラリ第一月一日より然ニ未第十二  
月三十日「コロナド」出版の新聞紙を持未リ又「コロナド」第一月一日出版の  
新少紙も持未ラ實ニ駿速ラ事間小艇と容テ場合モラリ見  
者誰も驚怖モラん是此の駿速モ全電氣報の為モラシモラ  
今もう二年を経テ電氣線此大地球を一周モリテ亞米利加と亞細  
亞の間モ「ペーリング」海峡モ結合一大洋ハモリ「ケーブル」海底子洗傳機と  
施テ以て結合一陸上ハ「エイルライ」空氣傳機と以て尽く結合モラシ  
と考ナリテ戰爭ハ勿論萬事小於て一日も早くんをモラシ賓

#### 外國諸物價相場

緝 日本産を交易し 持行 亂其價高うにて利口に於小諸人買ひ商  
人大き損セリ

茶 同價貴くにて賣ひ大に損セリ爲セテ僕と減志んて買考スル爲

嵐洋布 水綿糸 吳呂服

右の呂物日本より甚廉價にて買ひ以て外國商人ロ本へ持來るを止ん

シテ

羅紗甚價低けれハ横濱中にて求む者甚シテアリ  
砂糖ハ横濱にて多く水々故呂宋支那產價上セリ

米ハ近日多く持來る事一故小相場定セリ

英學有志も諸君子も独立、  
以出可成り

口中一切療治往復

百八番

百一番  
英國教師  
ベーリー

報告

黒江屋友七

此者係以前私方にて審取、呂仕ハ  
變子細有々暇半向半無諸人ト  
報告ナシ

亞國

ウエンリート

私錢多度を町通九十三番、  
引移ナシ

亞國

ウエンリード

私店より羅紗外國人衣類皆皮類ライフル砲并ヒストル等之  
品く商賣仕合入用之傍方板シテ原如ノ程便、至サシタニ  
若又モ保持合拿シテ早速本國ノ不ガリテ移シテ向  
内注文可シ

本町通 七十番雀

ベーカス

此度移居之外國に某種漆具製練家之種及ひ道具寫真術  
醫術及礦術等、用具器械其外英印支那之書類商賣、仕  
業向以人用之造方根を以里求之經偏、本草之不有又一品而挖合せ全  
て國許より不有之差立つてノウガヨ御注又可シテノル事候上矣

本所通 八十三番 ハルトリリー

羅紗類フランカット花毛氈衣類履革佛絣并焉興廢の角に以方を  
以來駕之程車輿上不有又如今全之定也早速取次と家丈不吉、  
差上ト候

八十二番 マケンハニー

器械製造工等一切鐵鋼工はる若又生鐵鉄鋼も以用ヒツ、  
何種也。本國ノおもて今承し取取引て持ト有レル之程車輿不吉。

六十九番 ナウサットフィールド

慶應三年二月中浣

英國教師ベトリー先生編

横濱八十三番發兌



ウニイ

凡例

一此の新聞紙を日本の諸君子小萬國の事情を告げん為て編成セ

ス

一日本の開化する事速ヒテ方今有志の諸子萬國ト遊歴學問等を官許あるを實小余輩の慶也所トシ其時ト當て諸君子萬國ノ事情ヲ通シテ實ニ缺クシム急務アリ

ス

一毎月二三回飛脚船の新聞を得ルや否直ヒテ上木モダ

ス

一此新聞ハ諸人の報告を集ウテ編キ者故ニ其報告間々疑アリテ其說の確アリヤ否を知ル者アリと雖モ編者は是と辨ム事能シ

一諸君若一珍説奇談を聞カバ本村通百六十八番或ハ本町通八十三番テテ報告キルダ然レハ直ヒテ此の新聞紙へ加ハ出板モダ

ス

一飛脚船到着次第外國諸物價の相場報告を得ハ是亦一同上木モダ

ス

一横濱市中物價相場も上木の度ヒ毎マ此後テ附モダ

ス

一卷末小横港新聞とツル者と舉ケルハ當地モテ出ハ新聞トテ此地小限リタリ消息とツル意アリ其文中間ヒ設ケル者アリ諸君答書モバ

ス

一百一一番松宅テテ投却モダ

萬國新聞

余輩甚に新聞紙を覽る者小新報と告クフ好じ殊ト此度英國軍官の此新聞紙中小兵術を舉け出さん事を企テ一を喜ブラリ其説の奇ラリ事教導の一助ともラリ且圖を加ヘ以テ「ライフル」砲の用法目的狃狃の法軍隊の運動等ト出さんト新聞紙上木毎マ卷末モカシベ

一先づ新聞紙ミ書き餘ヒ印度行キ一人モ別モ海路を曰くモ通行セ

一印度海ミ取ル茲小龍動ミテ旅船ニラアハ佛國の蒸氣船アリ一英國乃名高ミ「ペニスラルエドヨリーンタルステイムチネガーニ」社中の火輪船アリ此英船、龍動リテの船貨七百四十六ドル<sub>是と最も船貨</sub>アリ東洋行ヒテ價高シ如ク然モ英船ナシハ酒麥酒の類ミ定價の外ナリ一盡ヒ雖モ其價實ト驚クベ一今之時小當ても英船ナ最廉シテ且「卫ウロッパ」小艇クの最捷快シ者アリ爰ニ其路次ヒ上海香港「ミニカボール」<sub>名</sub>の海峽<sub>日本</sub>大ニゲ<sub>名</sub>到リ而ヒテ「ベニゴル」<sub>名</sub>の港<sub>地</sub>経テ「シーロン」島の「コール」<sub>名</sub>不<sub>地</sub>到着モ此於テ「カラタッタ」<sub>名</sub>及「マドラス」<sub>名</sub>の蒸氣船を借テ印度洋を航海一紅海のエーデン不<sub>名</sub>着帆ナ此を出て一周ヒ「イジット」<sub>名</sub>の「スエズ」<sub>名</sub>不<sub>地</sub>達ナリ横濱を去帆セテ六周日ナリテ里數三千三百二十五里又

火輪車小乗移り「スニズ」の地峠上経て「カイロ」名地小着毛車道三十六里此小暫時車を停めて「イジアト」の高名うる「ヒラミッド」石塔の大木にて一觀ナ又此地より「アレキサントリア」名地小到リ<sub>里數</sub>空童又別船小乗ド「ジブルタ」海峽を過ミ「リーサム」アトン地小着毛横濱を出テ一里五十六日みて里程總て四千六百六里うち夫ち火輪車小乗り龍動ト趣クハ二三時<sup>午後</sup>テ達モ若「アレキサンドリア」ト他乃火輪船小乗ト「マルタ」名地を經テ佛國の南方うる「マルセール」名地趣ミ蒸氣車來移リ併國都府「パリス」名地と經ク又蒸氣船を借て海峽を横劃ト龍動小趣クも前の路途よりも六日も早く達モベー龍動到着の後東洋行キ者と相逢ふ印度行ヤ一人も紅海を過一時大ふ酷暑小苦<sup>シ</sup>歸路を必印度行ト路を取ルと話す爰<sup>シ</sup>余彼二人の倉行さんと談ず東洋行キ一人も船中酒と飲<sup>シ</sup>を以<sup>テ</sup>飲む時も價驚<sup>ベ</sup>高<sup>シ</sup>て入費小堪<sup>シ</sup>モ因て歸路を必印度行ト路を取ルと話す爰<sup>シ</sup>余彼二人の倉卒小旅行一て多くの國を縱觀<sup>シ</sup>事能<sup>シ</sup>と勧<sup>シ</sup>小あ<sup>シ</sup>ず若途上に於て遍く各國を縱觀<sup>シ</sup>と欲<sup>シ</sup>意<sup>シ</sup>其更<sup>シ</sup>と同<sup>シ</sup>者小通<sup>シ</sup>ベ<sup>シ</sup>其地<sup>シ</sup>北<sup>シ</sup>數日<sup>ト</sup>テ次の飛脚船と待て出帆毛此二人の奇説<sup>シ</sup>と短く繰<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>實<sup>シ</sup>小止<sup>シ</sup>事<sup>シ</sup>を得<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>他尚談<sup>シ</sup>事<sup>シ</sup>あれど今はと畧せり然れども早晚<sup>ト</sup>ペニンヌアルエードヨリーナタルステイム子ウイギュリニ社中の衆船取扱いの説<sup>シ</sup>興<sup>シ</sup>ベ<sup>シ</sup>ウイソニ<sup>シ</sup>人の懇情<sup>シ</sup>因<sup>シ</sup>得<sup>ベ</sup>ト

此社中ハ世界少<sup>シ</sup>先要用<sup>シ</sup>て且大<sup>シ</sup>猿船社中うる此事を龍動<sup>シ</sup>テ此社中の長の記者<sup>シ</sup>因<sup>シ</sup>て識<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>委曲<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>説<sup>シ</sup>横濱<sup>シ</sup>存<sup>シ</sup>同社中<sup>シ</sup>ダウイソニ<sup>シ</sup>人の懇情<sup>シ</sup>因<sup>シ</sup>得<sup>ベ</sup>ト

第一集小舉<sup>シ</sup>る新聞<sup>シ</sup>得<sup>シ</sup>後英國の飛脚船「ガニジス」日本の二月三日當港<sup>シ</sup>着<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>龍動<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>第一月十日<sup>日本</sup>青<sup>シ</sup>迄<sup>シ</sup>新聞<sup>シ</sup>持來<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>佛國の飛脚船「スウォナド」<sup>船</sup>二月八日<sup>日本</sup>到着<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>龍動<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>第一月十七日<sup>日本</sup>青<sup>シ</sup>迄<sup>シ</sup>報告<sup>シ</sup>持來<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>又仏國飛脚船龍動<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>傳信機<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>報告<sup>シ</sup>第一月八日<sup>正月</sup>迄<sup>シ</sup>新聞<sup>シ</sup>持來<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>（

### 英吉利國

第二月五日の公會日小先の亞國南北戰爭<sup>シ</sup>時南部の軍艦中不<sup>シ</sup>往<sup>シ</sup>英人の乘組居<sup>シ</sup>と見<sup>シ</sup>殊<sup>シ</sup>アラバ<sup>シ</sup>船<sup>シ</sup>許多の英人乗居<sup>シ</sup>故<sup>シ</sup>亞國政府<sup>シ</sup>英國政府<sup>シ</sup>詰問<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>アラバ<sup>シ</sup>女王溫和<sup>シ</sup>處置<sup>シ</sup>答<sup>シ</sup>送<sup>シ</sup>其他の新聞<sup>シ</sup>實<sup>シ</sup>悲傷<sup>シ</sup>ヨ<sup>シ</sup>き事件<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>英國の炭坑<sup>シ</sup>恐<sup>シ</sup>破<sup>シ</sup>裂<sup>シ</sup>其根源<sup>シ</sup>尋<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>曠夫<sup>シ</sup>アーヴィ<sup>シ</sup>發明<sup>シ</sup>免難燈<sup>シ</sup>上部の螺旋<sup>シ</sup>拔<sup>シ</sup>不<sup>シ</sup>因<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>死<sup>シ</sup>五百人<sup>シ</sup>及<sup>シ</sup>其不<sup>シ</sup>因<sup>シ</sup>夫<sup>シ</sup>失<sup>シ</sup>寡婦<sup>シ</sup>難<sup>シ</sup>家族<sup>シ</sup>不<sup>シ</sup>金<sup>シ</sup>典<sup>シ</sup>人頭<sup>シ</sup>調<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>○第十一月三日晴<sup>シ</sup>龍動<sup>シ</sup>近傍<sup>シ</sup>「ジデンハム」<sup>名地</sup>小在<sup>シ</sup>「キリストル<sup>シ</sup>」

ス草木禽獸其外称奇と譽火と失ひ、萬其四分之一を焼失テ夫れの損亡凡百万ド  
ルシテ衆人の游觀小供多々也。又此於て人民を多く慰  
安テ追再建の企テ。去歲冬英國まで往來稀うる嚴寒テ且大雪  
降りて蒸氣車道も運動する能テ又海風甚く破船多々死  
多々歐羅巴洲中、於て死々ふ如些テ荒損わテ。第一月十五日十二月龍動テ  
水中陥者三百人中、就て溺死者四十人あり。此度「ゴンバウト」小軍艦七八艘日本  
及ひ支那國へ送テ為テ不大。催促して今盛り製造テ。去年第十一月廿  
六日日本十月二十日横濱テ於て大火テ。報告第一月十四日日本十一月九日傳信機テ以て龍  
動テ達テ

### 佛蘭西國

今歲第一月一日、外國使節及び臣下國帝小拜謁——新年の賀と述べ  
時帝是テ答へて曰新年の始帝位萬歳テ萬民安全テ爲の願  
ひと言好時會テ逢テ喜テ我靜和の時テハテ事テ望む爰テ一般の  
博覽會テ萬國人民各テ旧怨テ棄て相和テ皆朋友の如く互テ此會  
と相助けん事テ希テ。○日本使節二人「ベルリニ」地名及ひ「セントピートルス

ブルバ魯都小趣く途中テ、パリ佛都到着セ。佛國の兵員新年小六十萬  
人あり。佛の新聞紙「リベルテ」新聞紙より次の奇説を得テ。魯英二國そ  
都児格の領主配テ事テ密小企テ。此の事テ秘テ雖テ益テ事テ  
リテ。甫魯臣王も其後の利テ得テ。此の事テ秘テ雖テ益テ事テ  
兵テ又「キングジナルジ」甫魯臣英太子魯太子テ希臘テ各テ小平テせんテ。  
故テ魯英テえすテ心腹の國テ都児格テ此の前兆テ覚りて其備テ。為テ  
んテ然テ新兵テ用意テ入費テ何の處テ小存テ。爰テ不意太利亞テ都  
児格テ向て傲慢テ形狀テ爲テ。上の事件テあるテ因テ意太利亞テ教  
児格テ不和テ。

### 甫魯臣

此國の政府「ソースアニアント」美國の海程テ日耳曼及ひ合衆國の間テ往復する飛  
脚船社中テ建つ事テ免許テ。初集小近頃の「チーストリヤ」との戦争  
小大テ勝利テ得テ。因て「カチエトビースターク」人及ひ高名大將テ褒賞テ  
大金を典テ記テ其金テ代テ此國の部テ。此と見テ。

### 魯西亞國

此國す今尋常事無き時其の兵員七十万人あり前時より十萬人減少キ  
然モも若一兵と用ゆつ時到ヨリ六周日にて數萬の兵卒と聚ヒ  
且今より二年ヲテ砲隊新砲と備ヘ又今年中トアリチローブル銃械三万  
挺及ヒ「ライフル」砲三百門と製造矣

### 和蘭國

此國政府「ツイダルゼ」とツク内海と埋タセ陸地と多く士貢數輩不命一計量  
ナカニ其徑約十八里幅十四里此の内海と埋タセ歐羅巴中自國の領と增んヒ

### ベルジアム國

此國近頃日本と條約を結ヒ報告彼の國ふ達キ不執政官等皆極ウテ是ヲ  
喜び又贈答く佛語と用ひテ而和蘭語と用ゆるを殊の外歎ブ

### 澳斯太利亞國

日本「サイアム」國及ヒ支那使節と送んと企て一事と初集ミ舉ムアリテ甫  
魯臣との戦争にて國力大々疲弊シ故不政府大々利益を得リを知リと雖  
トモ是を送る事能シ然モ國商是と聞て頻々彼の三ヶ國へ使節送  
送んと政府不願ヒ

### 伊太利亞國

「コーントラール」人名日本へ送ル人命レル「ミニストル」名の都児格フ軍艦  
「カニニア」海々伊太利亞飛脚船と名ヒ砲艦アリ因テ伊太利亞政府ト  
都児格政府トノ償金と出さん事一と請アリ

### 羅馬國

羅馬政府少々英吉利米利堅及ヒ他の外國人の此國少在溜リテ各自國  
の教と奉事を數年間許一來リテ此度嚴ヒ是と禁止セリ屋  
内少於て奉拜も許さんヒ

### 合衆國

此國の會議官大統領と異論アリ故小大統領に於テ益々彼等と悪モ  
見シテリ○前の大統領「リンコルン」名と殺害キ一黨の一人うち「スレラット」名  
「アレキサンドリア」地名にて捕モリテ是を拷治せん為シ合衆國少送リナリ  
○合衆國の西境にて此國の兵卒「インディア」人種米利の為不殺モリテ故小政  
府にて彼「インディア」人を駁殺一尽く少至て止シテ○合衆國一般  
二十年来見シテ所の大風雪あり蒸氣車道と埋ル船艦の破壊も數多也

### 墨西哥國

合衆國政府少々墨西ガ國事トシ專シトモリ此國人民の喜び所

アルチニア國

此國亞弗利加の北方に在りて佛蘭西に屬す。此に大うち地震ありて其が  
為よ「アトラス」山脉の近傍より四箇村陥没——且人民の死喪甚多。

支那國

此の國海賊殊々多く故に歐羅巴諸國及び合衆国政府本国政府と共に是  
と禁止せんと約き。一人をも達らや否直に殺戮も

日本國

英國の「エリール」船香港より横濱に着たり。初集小虫等、彼の難船となる  
三十五人の者を送り来り。前ふ三十六人とありて今一人缺す。彼「コリヤ」船覆没  
せし時溺死——。此の「エリール」船極めて羨麗にて且迅疾。ヨーロンンド  
より香港十七日より達セラ。の英國の使節二人大坂より横濱に歸り  
まくの住所を預け設てひり到着。大坂に到着。叶已ニ僕馬。至  
来き。彼の地ふ於て大ふ饗應と受ける。明日町奉行の伺候を受け演劇  
場其他市街等遍く観覧。得て大坂を商賈の盛うち地にて彼  
商賈等皆兵庫の開港を喜び居る。見つ。十四日前佛國の「ミニストル」  
ヨーリアル船小乗にて兵庫にて趣す。薩州にて亞商「ブレデク」と  
國一艘。亞國一艘。和蘭うり。

「ライフル」砲を買へん事を約。證金千ドルを送り。然る。小彼砲を送り來り  
金と。与ち。時未至り。約。一時間。日本後。アシ。亞商即ち證金と集めて  
價物を典。日本より亞國「コンスル」官。自此の事件と談。モ「コンスル」  
他の亞商三人小命して判。ヤウゲ遂不。アシ。アシ。理。と決。セラ。當時  
横濱小碇泊する商船十五艘。軍艦八艘。其中四艘。モ英國。二艘。ハ佛  
國。一艘。アシ。一艘。和蘭うり。

外國諸物價相場

此頃着キ。英佛飛脚船。得。報告。日本產物の相場「ロンドン」を  
別小変り。もう。今茶及び生糸の相場。於て少く違ひ。各國  
多く「ロンドン」小生糸持来る。英商。支那及び歐羅巴中の生糸。多く買入  
り少くて日本産。不用。其故。直段甚高。且其中小糸。品。交  
えり。ある。以て。是を日本商人告げ。知。之。要用の事。實。ロ  
ンドン。商人。於ても。歎く。事。英佛。茶。及。生糸。横濱  
買入。稍。安。若。此の如く。ち。ても。日本生糸の賣買。哀。微  
る事。疑。綿。亦。同。相場。高。

穀類及び砂糖を日本にて多く求むる故に近日本來

此頃数日間小許の商船當港に到着セリ支那より穀類砂糖等多く載來セリ支那砂糖極上の品にて百斤土ドル三十五米百斤四ドル半或は五ドルセリ

當時日本一分銀の相場安き故因て多々シ支那及び印度の銀座へ送

竹百ドルセーフ銀三百三十

日本銅錢即ち天保錢一両コモハ十二の割合と以て交易スルと約ヤ

### 衆亂の會議 戲談

昔時數多の羣亂あり猫の爲り大苦やうふ因て其害を除く為小會合セリ然るも議論時と移て其術を得て中一小亂ありて進み言て曰若一鈴と以て猫頸ト懸け其聲ヲ聞キ彼の眼ふ觸れセリ向く逃去シ何如と衆亂皆節と擊て妙策セリと以て此老亂あり衆議中黙然として居テ居テ出角り然れども誰か猫頸ヲ鈴と懸くや是至口々言ふ空くして考モツツモの譬喩ト以

合衆國ヘシルワニア地名の人發狂ヤシ遂小次の事情小因て

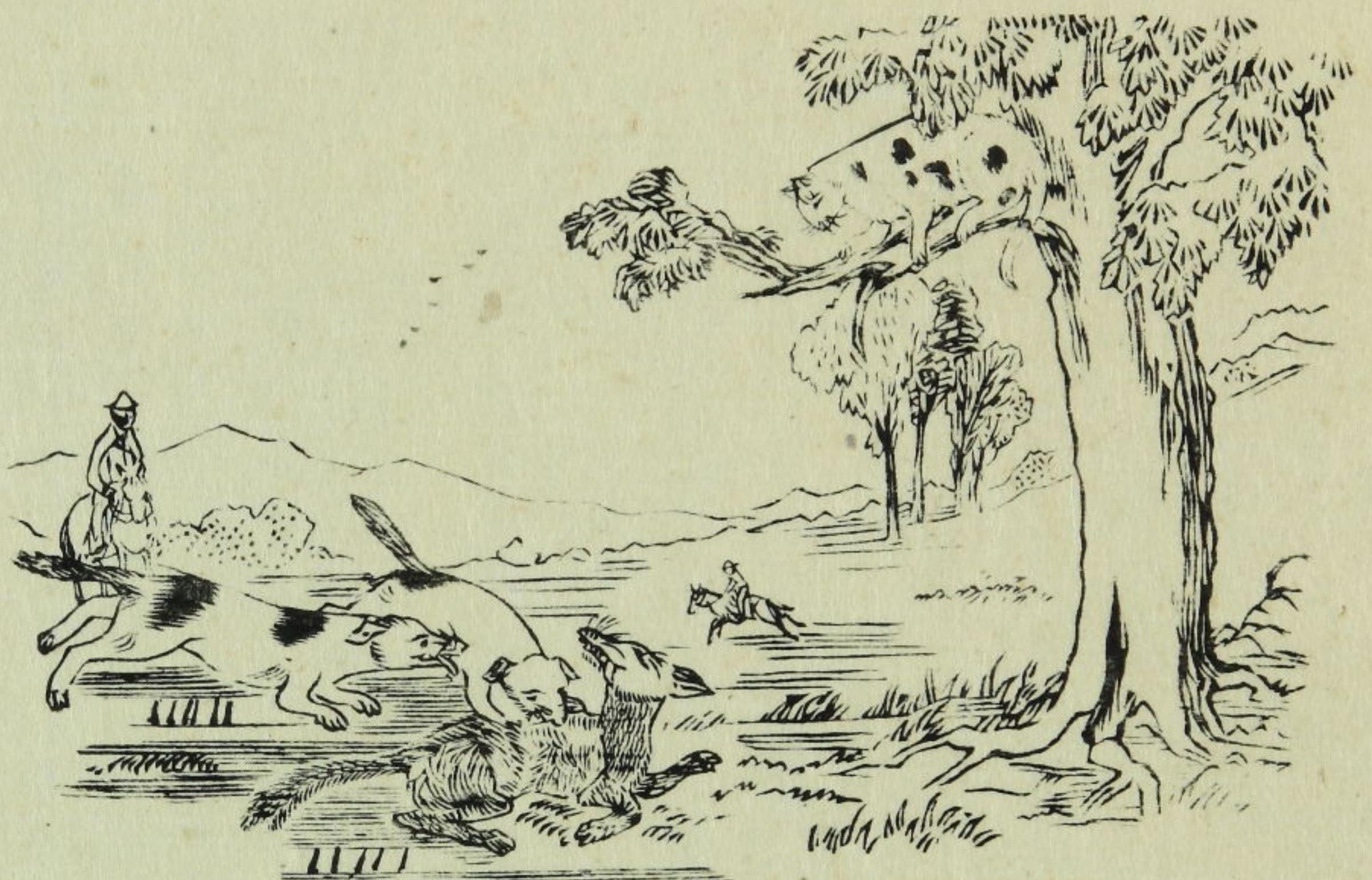
自裁を死後其れの遺書を覽み左の如キ

其書曰く我一長女を携エラ所の婦婦を娶ミテ然る小我が父彼の推ノヘ来る所の女兒を愛恋一其れの餘り遂父の妻とモキ故小我が父に我父婚とモキ携エラ所の女我父母とモキ何如モキ其女ハ我父妻モキ妻昂ヒ推エラ所の女一子を生ウタ其子ハ我父の兄弟モキ又我父叔父モキ何如モキ彼ハ我父子也モキ又我父妻モキ何如モキ彼ハ我父妻モキ又我父兄弟モキ又我孫モキ又吾祖父モキ又吾孫モキ又吾父モキ又吾孫モキ

### 狐猫の智

一猫樹上に在て狐の樹下と遇シテ逢テ猫自負して以て我を宇宙間小最靈有智の者モと即ち柔聲にて狐小言て曰我友狐公近頃何如何光陰を消モサヤ壯健モサヤ狐以テ彼の自負ち悪ヒテ答ふべくや何如モキ而モサヤと稍思案キテ暫く一言て曰く汝賤人目を

横濱新聞  
 日本政府少於て江戸より横濱ふゆるの間々試小傳信機を施一を行ひ更  
 ト勧ひ者ありと聞けり若一此機械の用と為モ時も國中より遍く  
 製造せん事疑う此の如くうゞむ本國も實大して駭く至  
 乃勢と増一且其莫大の利を得事百萬の貢稅上りしる小等一  
 ジン是と製造せんと上小在り者其人と擇撰モベ一造らぐく行ふ  
 づきと試みて後アリ命至ベ一彼の線材をもつて卑賤の者や  
 雖も教うば作ら年を度す一其機械を用ひ行ふと至てて少く学  
 び得べ一別の人と擇撰して海外人アリ就て之を一少く小毛シラカシと云ふ  
 尋常の人にて行ふと何を難きあんや今横濱中より外国人も是  
 と行事上得り者殺人アリ當港在留の外國人も皆此更にと喜び  
 者リ一上文と記す後當港より「シウイルインジニール」職  
 り野毛より東海道を通じて江戸まで大約九里と一此の製造入費大  
 凡二千ドルうち但シ代と除此の機械成就乃後用ひ行ふの法で終小一時も学  
 び其上得一且日本文字と以て行ふも亦難くさむ矣



窺ひて竊きあす班毛の愚獈汝飢て巻を捕らもの  
 我小達て剛慢あらず何をや汝も何をやい一や我  
 多の側をかねつや參て曰我小一術あり曰何如曰猛犬  
 我を窮迫き時我樹上小舉ぢりて危難を免る狐曰  
 伎の智を夫ア盡く汝我々百術わフ我汝が無  
 襲あつて百般の傍計を施ミベ一我汝が無  
 多を愍む來れ汝ア大の害を避くの術残  
 教ルと此時一獵者馬ア乗り獵犬四足を率  
 て忽然アテ後へ小走り彼の猫ハ速小樹  
 上不擧ぢり枝葉繁茂中小身を隠一て言  
 て曰狐公汝の智囊を開けめの智囊を開  
 と然ナリも彼の獵犬も已不狐と捕へ獵者是  
 を縛一ア猫乃ち曰狐公汝百術を知ルト  
 自負キ一今縛縛身小在りて搖動ヨリ  
 事能シ哉若一我の如く樹上小舉みだる事  
 まほを汝の肉ハ人の好下物と云ふを乞

## 横濱音信

萬國新聞紙と編成する者小贈る

夫萬國新聞紙を作れるを日本の諸君子小要用しん為らう其の如く  
我外國人にも要しん事と願ふ因て今此を君々新聞紙ト加へ余を  
一々日本にて癩病の瘡痕及ひ療治の術と向ひ聞く吏と容子ト  
○今日本何處か地にて此病の流り有りや○其れの盛り行もる  
因て是よりて別村小住居キチナリありや○此病と傳遷病と云ふやの食  
物住所と因て起りや○父子の間代々の傳病うるや○父祖兄弟病じて  
二三代の後其子孫と經る者ありや○遂に愈する病少くや○療治さ  
何如うるや○余八九年前長崎小来り一々今と比量を實ニ至學問  
諸術の益と聞け盛りあらず驚いた堪て我彼時より絶へば一々進  
尚此後無く盛大に聞け盛りあらず此新聞紙の日本諸子  
マ多く利益とあらず日本の商開を進むんとするの一證也とす  
遂に諸君の此新聞紙を實小缺づゞざら書と貴うと頼シ若モ

亞國の醫

嗎 高温

西洋紀元千八百六十七年第三月一日

英學有志之諸君子も独立、  
出可被成外

百一番

英國教師

ベーリー

報告

黒江屋友七

此者係以前私方と番以、右仕合  
交子細有々暇半、間止有諸人ト  
報告ナシル

内エシリー卜

亞國

ウエンシリー卜

口中一切療治付度

百八番

ウヰニ

私錢多度在町通九十三番、  
引移ナシ

私錢多度在町通九十三番、  
引移ナシ

亞國

ウヰニ

私店為羅紗外國人衣類皆皮之類ライフル砲并ヒストル等  
品く商賣は勿入用ヒ昂方板ヒシテカクシ程便キマサヒ  
若又モ取持合手モキ幕モ早速本國ノ取扱アテ移シ同  
内往文可也

本町通 七十番

マーカス

此度移居之外國に某種漆具製練家に薬種及び道具寫真術  
醫術及礦術等、用具器械其外英佛西米支那、書類商賣仕  
事間へ用ひ方機を以て買求え徧至る事多く又多品持合せ会  
うて國狩より取セうる事立テ、又市井注文可也、然支那上手

本町通 八十三番 ハルトリリー

羅紗類、ランケット花毛氈衣類、履、美佛銷、馬具店、角、以方、  
以來駕、程、車輿、上、若、又、船、合、金、洋、水、早、速、不、良、セ、家、夫、ト、吉、  
差、上、ト、兵

八十二番 マケックニー

器械製造一切鐵細工件、若又生鐵、鉄錠、蒸氣器械、鐵船、軍艦、商船  
其外大小の船器械も以用、ノ、本國、ノ、モ、政府の器械と製造段店、  
ヨンペシ、卫ニドソシス」と、ア、た、も、其、れ、名、ト、イ、テ、方、ト、リ、ア、モ、吟味、ノ、ル、  
ア、又、傳信械、械も取、高、組立指上す、ト、ロ、ヒ、往、文、ト、顧、矣

六十九番 ナウヰットフィールド

諸御大名衆様方其外並、氣船ヲ買入、來度、方、標、私方、  
所用、引、渡、事、度、自、然、又、右、船、係、レ、一、切、事、車、ノ、若、被、爭、合、  
被、成、ま、テ、及、か、重、納、下、且、何、車、ノ、往、文、ノ、經、伏、ま、事、不、  
ベニシス、元、卫ニドモリ、一、シ、タル、ス、テ、イ、ム、子、ウ、イ、ゲ、シ、ュ、ン、社、申、出、張、

横濱海岸十五番 ダウイソン

私、處、セ、タ、メ、キ、度、ア、外、國、品、物、迫、賣、仕、向、半、舟、以、技、度、は、望、

横濱本町通五十七番 フレッセル

私方、英吉利產の壯、承、ニ、足、少、年、間、若、其、種、と、取、度、以、四、千、  
四、方、服、テ、北、承、少、年、系、テ、少、年、生、死、再、諸、人、以、被、露、尸、以上、

横濱海岸通五番 スメツス

英國新航海書、并、農業書、移、到、著、付、間、少、買、水、程、

奉、願、矣

横濱八十三番

ハルトリリー

肆 行 書 肆

此新聞紙皆度上本と更賈本と翻刻致者有り難い難斗仍為表紙と不許翻刻ト至記一多度詮諭つゝ其事按寫し有り公顯若前文之文有り財を公顯以上

程ヶ谷 天野屋幸太郎

横濱太田町三丁目  
大黒屋茂兵衛

横濱本町通八十三番

ハルトリー

寫し有り

此郵便料金並賣捌方利度度  
有り有り之多三割て利益の相  
渡すと向早速ナシテアリ  
是又被處送れや矣

以上

夏物又ミ里羅紗衣服一組お端へ白襪衣ヲニ子ル襪衣下股引襟鼻拭手袋足袋皆長皆兩衣放鞭馬具之類到着はく間は水道偏ニ幸願尤猶又以注文を成ル急取を取寄スモニテノ事且衣被はく立使ひ以用を工作でシカク以上

横濱本町通五十二番

ロスモードウイルマン

横濱井天通三丁目角

東屋新吉

此者假私方ト出入忍乃、安各、作のナヤテ羽印可持支官此私該ノ報告ヤ、以朱墨者ト西廻不善リ、方可御

横濱百一番

ベーリー

丸店、麻病又セ瘧毒の妙藥「サルサ・パリラ」根の「エキストラクト」  
ガムレアノ、買求キ取

横濱本町通八十三番

ハルトリー

わ  
レ

